

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果について

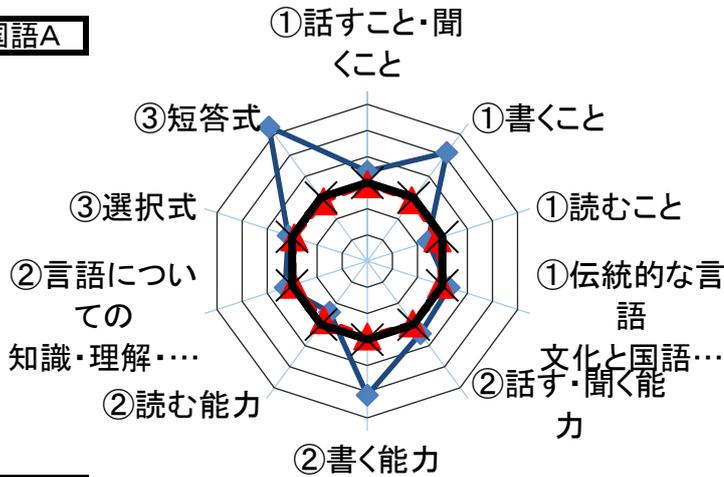
平成30年4月17日に実施されました「全国学力・学習状況調査」につきましては、結果が公表され、対象児童へも先日個票を渡しています。つきましては、本校の結果等の概略についてもお知らせいたします。

全国学力・学習状況調査は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。」「そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」「学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。」ことを目的とし、平成19年度より行われています。

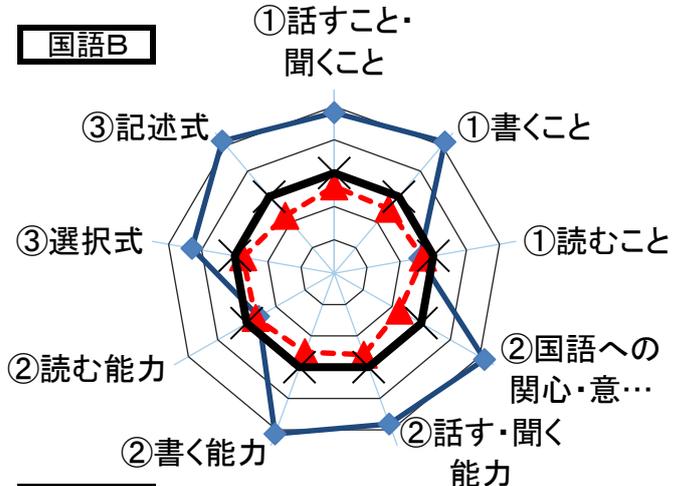
小学校は、6学年を対象とし、国語・算数・理科の3教科で調査しています。なお、本調査により測定できるのは子どもたちが身につけるべき学力の一部であり、教育活動の一側面に過ぎないことを踏まえながらも、これまでの指導との関連を図りつつ今後の指導に生かしていきたいと考えています。

◆学力の概観

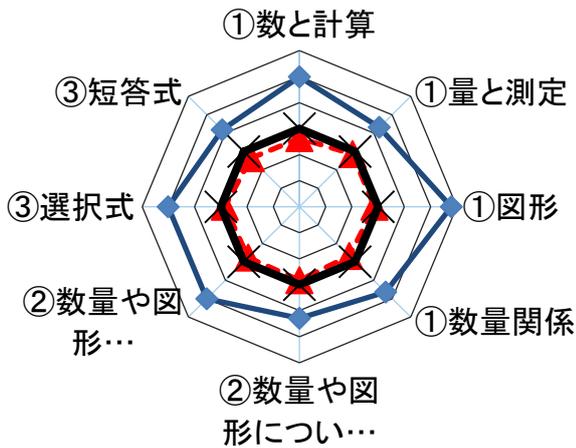
国語A



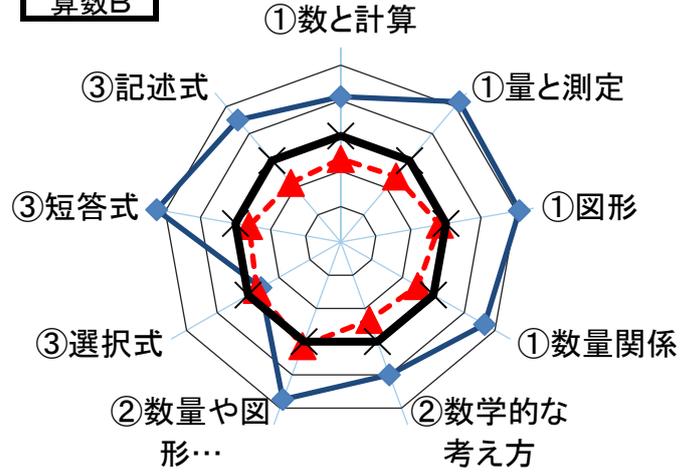
国語B



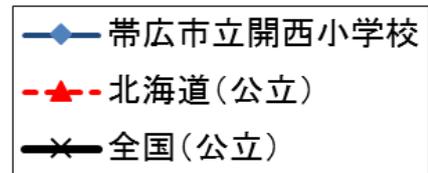
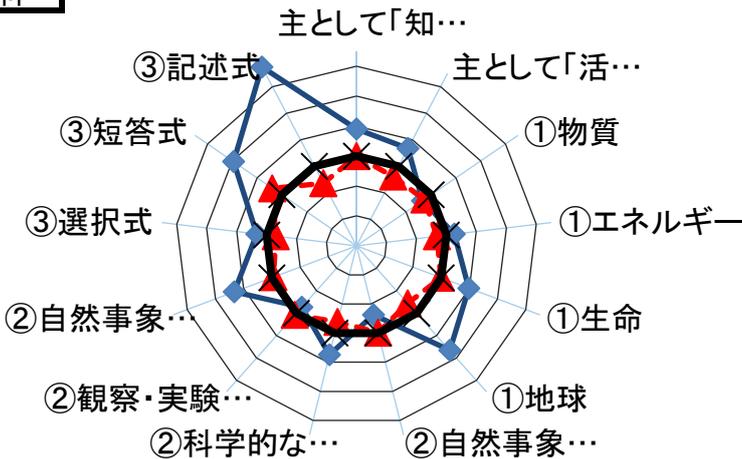
算数A



算数B



理科



○国語について

国語A(主に知識を問う問題)B(主に活用を問う問題)とも全体の平均正答率は、全国全道を上回る結果であった。領域別で見ると、「書く」領域はABとも高く、特にB問題において例年課題となっている「記述式」の問題形式は大変良い結果であった。「読む」領域に少々課題が残り、今後の学習において補充が必要となった。

○児童質問紙について

学習意欲は、全般的に高い結果であった。話し合い活動については苦手意識があるようである。

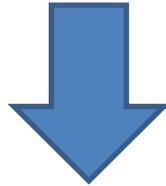
算数への学習意欲は大変高い。それが算数科の学力向上にも結びついていると考えられる。「家庭学習を行っている時間が短い」等、学習・生活習慣の育成と「自分には良いところがあると答えた児童が少ない」等、自尊感情の醸成について課題がある。

○算数について

算数は、A(主に知識を問う問題)B(主に活用を問う問題)とも全体の平均正答率は、全国全道を大きく上回る結果で、大変良い成果が見られた。さらに領域別においても、良い結果であった。これも、平成25年度から行われている指導工夫改善加配の継続的な活用が大きな成果となって現れている。また、単学級のため、習熟度や少人数学習を主として授業内容が工夫されていることも要因として考えられる。

○理科について

理科の全体の正答率は、全国全道を上回る良い結果であった。領域別で見ると、領域ごと正答率にバラツキがある。今後、正答率が低かった領域については授業及び宿題や家庭学習などを工夫して、補充を図る必要があると考える。



◆今後の取組

- ・引き続き児童が落ち着いて学習に取り組む学習環境整備をすすめる。
- ・国語における「読む」領域の課題については、校内研究を軸として、授業改善に努める。
- ・学力向上の大きな要因として考えられた「習熟度別指導・少人数学習」については、さらに充実を図る。
- ・どの教科においても、自分の考えを表現したり、要旨をまとめる文章を書いたりする学習設定及びノート指導を行っていく。
- ・生活習慣の見直しについては、家庭と連携し児童への働きかけを進める。
- ・学習及び生活態度、特別活動において自尊感情の向上につなげる意図的な取組を進める。

